

6年1組「特別の教科 道徳」学習指導略案

- 1 主題名 「自分の心に誠実に」 A－(2) 正直、誠実
- 2 教材名 「手品師」(出典：光村図書 道徳6 きみがいちばんひかるとき)
- 3 ねらいとする価値について

過ちや失敗は誰にでも起こりうることであるが、そのときに嘘を言ったり、ごまかしをしたりすると、それは真の解決とはならない。正直な心を持ち、自分自身に対して誠実に生活しようとすることの大切さを考えさせたい。また、自己の過ちを認めて素直に改善しようとするとともに、真心を込めて明るく楽しい生活を送ろうとする意欲をもたせるようにする。

4 本時の展開

○ねらい 大舞台での活躍と幼い子供と交わした約束との間で迷った手品師の姿を通して、「誠実に生きる」とはどういうことかを考えさせ、自分自身に誠実でいようとする心情を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 約束について振り返る。 ○あなたは誰かと約束したのに守れなかったことはありますか。守れなかったとき、どんな気持ちになりましたか。	◇これまでの経験を振り返らせ、約束を守れなかったときの心情を思い出させる。
誠実な生き方について考えよう。		
展開	2. 「手品師」を読み、考える。 ○男の子は、「来るともさ。」と答えた手品師に、なぜ「きっとだね。」と言ったのでしょうか。 ・絶対に来てほしかったから。 ・親がいなくて寂しかったから。 ・約束を破られたくなかったから。 ○あなたが男の子だったら、もし手品師が約束を守らなかったらどう思うでしょう。 ・楽しみにしていたのに、ひどい。 ・もう大人なんて信じられない。 ・なぜ来てくれないのだろう。何かあったのかな。 ○あなたが手品師なら、どうすると思いますか。また、それはなぜですか。 <男の子に手紙を見せる> ・男の子がかawaiiそうだから。 ・男の子を傷つけたくないから。 ・手品で人を喜ばせたいから。 <大劇場に行く> ・自分の夢だから。 ・そのために腕を磨いてきたから。 ☆誠実な生き方とは、どのような生き方でしょう。 ・人との約束を守る。 ・相手の気持ちを考える。 ・自分が得することばかり考えない。	◇男の子が手品師と会うことを固く約束しようとする心情について考えさせることで、男の子が手品師による手品を心待ちにしていることに気付かせる。 ◇事前の発問を踏まえ、男の子が約束を守ってもらえなかったらどう思うかを想像させる ◇手品師も、自分が約束を破ったら、男の子がどう思うかを想像して、そんなことはできないと考えたのだと気付かせる。 ◇前の2つの発問を踏まえて、自分が手品師になった場合を考えさせることで、自分自身に誠実な生き方への理解を深める。 ◇考えを焦点化するために、「住んでいる場所が分からない男の子を大劇場に連れていくことはできない。」という条件を付けておく。 ◇導入とつなげ、人生には必ずしも自分がいちばん望むことばかり起こるわけではないことを踏まえながら、誠実な生き方とは何かについて考えさせ、自分の心に誠実に向き合い、誇りをもって生きようとする心情を高める。 ※今までの自分の生活を振り返りながら、自分にとって「誠実に生きる」とはどんな生き方をする事なのかを考える。 (ワークシート)
終末	3. 学習のまとめをする。 ○今日の学習を通して考えたことを、ワークシートに書きましょう。	